

### 社会福祉施設連絡会 定例会

藤井寺市社会福祉施設連絡会が2月27日(木)午後2時から、藤井寺市立福祉会館(北岡1丁目)で、会員等20名が出席して開催された。



冒頭の挨拶をされる奥田会長

奥田益弘会長は、冒頭の挨拶で、2月14日(金)、柏原市・羽曳野市との社会福祉施設連絡会三市合同研修会に触れ、参加頂いた会員施設へお礼を述べられた。

また、3月14日(土)に実施を予定していた一般市民向けの研修「まちの未来を考えよう!!地域で支える子どもの笑顔」に関して、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、次年度へ延期という決定を行った報告があった。

加えて、今後の感染拡大の可能性を考え、各施設の運営や人的資源への影響があった場合には災害時同様、連携・協働の体制を維持しながら、情報交換や緊急保護等を行えるようにしたいことを述べられた。

#### ◆令和2年度の事業計画案の提示

令和2年度の社会福祉施設連絡会としての事業計画案が事務局から提示され、参加会員が計画案の内容について、確認及び検討を行った。

今年度事業計画との大きな変更点は、小委員会の設置である。災害や研修、事例検討の事業を細分化し、各事業の充実を図っていくことになる。

#### ◆とつくり委員会より

とつくり委員会としては、引き続き、事例検討を中心に地域連携の強化を図るため、次に記載する活動を行いたい。



① 定例会(事例検討会)の開催

② 三市(藤井寺市・羽曳野市・柏原市)合同研修会の開催

③ 民生委員・福祉委員との顔の見える関係づくりの実現

これらを方針の柱として活動し、地域住民と福祉施設が一体となり支援を行う地域を目指していく。



定例会の様子

#### ◆社会福祉施設連絡会(地域貢献委員会)三市合同研修会

2月14日(金)に、藤井寺市立福祉会館(2階講座室)にて、三市の施設連絡会及び羽曳野市のOSW連絡会による初めての合同研修会を行った。

参加者は37名。各市の事例発表と各市の施設連絡会や社協の役割についての説明を行った。その後、約6名ずつのグループに分かれ、テーブルごとに、自己紹介や意見交換など三市による交流会を行った。

大阪府下でも、初というこの試みは、柏原市・羽曳野市の施設連絡会会長が、交流会後の挨拶で揃って感想として触れられたように、非常に有意義なものとなった。また、研修会を通して三市の民間の施設同士の連携や顔の見える関係づくりの大切さに改めて気づく良い機会となった。

大阪府社会福祉協議会から出席した田中常務、叶井部長、土生氏にはグループでの交流に参加して頂き、大阪府社会福祉協議会と三市のつながり強化にも寄与する機会となった。



交流会の様子





◆定例会続き  
ふじみ保育園からの施設連絡会入会の意向受け、藤井寺市社会福祉施設連絡会会則第7条に基づき、定例会前に役員会が開催され、入会を承認された。

同日定例会にて、入会の報告が行われた。

会議に出席した同園の房本園長からは、既存の保育園十病後児保育十子育て支援拠点事業を実施する予定であり、開園後、少しずつ事業の全面实施を目指したいとの話がある。地域の方に来てもらいやすい敷居の低い場所を目指し、地域の方に喜んでもらいたいと今後の意向も話される。

内覧会については、新型コロナウイルスの影響で中止を検討したが、市役所と協議し、一部内容の変更と最大の対策を講じて実施することとなったとの報告があった。



房本園長のごあいさつ

### ◆令和2年度 総会（予定）

日時：令和2年4月23日（木）午後2時～

場所：市立福社会館2階 講座室

\*会費（3,000円）を当日徴収

講演：藤井寺市生活困窮事業の現状  
（講師：藤井寺市生活支援課職員）



◆災害についての市役所との話し合いの報告  
西矢氏からの報告。現在、施設連絡会と市役所と発災時の連携について検討を進めている。2月27日（木）に市役所と今後について話し合いを行った。

話し合いの中で、地区では現在自主防災訓練が組織化されているところが35地区ある。その一覧を市役所から提供してもらい、連絡会の会員施設が、今後地区へのアプローチを継続的に続けていくことが望ましいとの意見が出たとの報告があった。

次年度、災害担当である西野副会長からも、「行政との連携、地区との連携についてどこまで食い込めるか分からないが、両者の意向を丁寧聞きながら進めていきたい。」とのご意見を頂いた。

### 中間的就労とは

社会福祉法人大阪府社会福祉協議会老人施設部会を事務局に「オール大阪の社会福祉法人による社会貢献事業」として事業展開されている中間的就労。

すぐに一般就労することが困難な方のために、認定事業所で、軽い事務作業や清掃作業などの訓練を受け、生活のリズムを作り、一般就労を目指す「就労訓練事業」のことで。



【福祉的課題を抱えているため未就労】

【中間的就労】

【一般就労】

### 「中間的就労（就労支援事業）」の

#### 福祉委員会／民生委員児童委員協議会への周知活動

事業のさらなる啓発を進めるため、民生委員児童委員協議会の定例会や福祉委員会のブロック会議に、会員施設の職員が参加し、周知活動を行っている。

民生委員児童委員協議会の定例会では、社会福祉法人や中間的就労の説明を実施した。質問が挙がるなど、関心をもって頂けた。

福祉委員会のブロック（概ね校区）会議での周知は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、中止が相次ぎ、今年度中にすべてのブロックで周知することは難しくなった。周知できなかったブロックについては来年度に持ち越して、会員施設の協力のもと啓発活動を続けていく予定である。



福祉委員会への説明の様子

